

秋冬系コマツナ新品種

「まっちゃん(CM-3)」の特性と栽培の要点

雪印種苗(株) 千葉研究農場

本 多 範 久

1 はじめに

「冬菜」「雪菜」「うぐいす菜」などの別名を持つコマツナは、もともと蕪(カブ)の仲間の野菜で、名前の由来は江戸の小松川で栽培されていたことからと言われています。現在でも、東京近郊が一番大きな産地であり、別名雑煮菜と言われ、正月の雑煮には欠かせない野菜のひとつになっていますが、近年、その柔らかく、くせのない食味から料理の用途が広がり、高ビタミン、高ミネラルの緑黄色野菜として、全国各地でも栽培されています。

当社では既に夏播き用品種として「浜ちゃん(CM-1)」および「スーちゃん(CM-4)」を発表し、関東地域および関西地域などの夏播き産地において収量性や葉色、在圃性の良さを評価して頂いております。さらに、産地からは低温伸張性、



写真1 露地栽培風景(埼玉県, 10月播種)

耐寒性に優れる秋冬を中心とした立性で収穫・調整しやすい周年播き品種が求められています。

昨年より、秋冬播き地域を中心に試作を行ってきました『まっちゃん(CM-3)』は、低温期における栽培で葉柄の傷み(はく離)や葉の劣化がなく、また秋冬コマツナとして葉色、株張り、収量性に優れ、有望なことから、今秋より販売を開始することになりましたので、その品種特性並びに栽培の要点についてご紹介致します。

2 新品種『まっちゃん(CM-3)』の特性(表1, 写真1~5)

1) 秋・春期の露地・ハウス栽培に最適!

~耐寒性, 低温伸張性に優れ,

濃緑・肉厚の多収穫~

耐寒性があり、低温期でも葉柄のいたみ(はく



写真2 「CM-3」の草姿; 露地栽培

極立性で株張り優れる(千葉県, 4月播種)

表1 コマツナ品種比較試験（露地栽培）

雪印種苗㈱ 千葉研究農場

品種名	調査日 (月/日)	草姿 (9~1)	葉形	葉色 (9~1)	葉面 (9~1)	株張り (9~1)	葉柄の 太さ (9~1)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉数 (枚)	一株重 (g)
平成13年9月28日播種											
CM-3	10/31	7.0		6.5	6.0	7.0	6.0	24.9	8.7	4.8	23.0
他社N	10/29	7.0		6.0	6.0	6.0	6.0	25.0	8.1	5.2	20.0
他社H	10/31	6.5		6.5	6.0	6.0	6.0	23.5	10.2	4.9	22.5
平成13年10月29日播種											
CM-3	1/15	7.0		7.0	6.0	7.0	6.0	23.8	9.5	6.6	26.0
他社N	1/15	7.0		6.5	6.0	6.0	6.0	25.3	9.0	6.2	23.0
他社H	1/15	6.5		7.0	6.0	6.0	6.0	24.0	10.6	5.8	24.0
平成13年4月2日播種											
CM-3	5/15	7.0		7.0	6.5	6.5	6.5	36.0	9.5	8.0	66.0
他社N	5/15	7.0		6.0	6.0	6.0	6.0	37.4	10.3	7.0	48.0
他社H	5/15	7.0		7.0	6.5	6.0	6.0	37.6	11.5	8.6	66.2
評点基準 草姿：9（立性）～1（開張性） 葉形：丸葉、袴葉 葉色：9（濃緑色）～1（淡緑色） 葉面：9（滑面）～1（縮面） 株張り：9（大）～1（小） 葉柄の太さ：9（太）～1（細）											

離）や葉の劣化がなく品質良好です。低温伸張性に優れ、広葉で株張りが良く収量性に優れます。気温がやや温暖な時期にも葉柄が伸びにくいいため、収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。また、温暖期の節間伸長や胚軸の徒長が少なく倒伏に強いいため、株がまっすくな良品が得られます。

2) 収穫・調整・結束作業が容易な省力種！

草姿

コマツナは作業性を重視する野菜ですが、本種は極立性で収穫時の葉のからまりがなく、葉柄はやや太めで折れにくいいため収穫がスムーズに行えます。また、葉先が垂れにくく、捨て葉が開張性で欠き取りが容易なため調整・結束の能率があがります。



写真3 「CM-3」立毛；露地栽培
濃緑で照りに優れる



写真4 ハウス栽培風景（千葉県，10月播種）



写真5 「CM-3」立毛；ハウス栽培
極立性で収穫しやすい

葉形・葉面

袴のない丸葉種です。平滑葉で葉縁の巻き(カップリング)がないため手にかからず、葉の破れがありません。

根張り

根付きの束出しの場合、ヒゲ根の多い品種では泥が落ちにくく、ヒゲ根をむしり取ってから水洗にかけますが、本種はヒゲ根が少ないので泥落ちが良く作業性に優れます。

3) 荷姿がきれい！

葉は濃緑で照りがあり、低温条件でも葉面に縮みがなく外観が良好です。葉柄が太く、莖葉のし

まりが良いため、荷姿がきれいです。また、葉肉が厚く、日持ち性が抜群で、根切りのFGフィルム詰出荷にも適しています。

3 適応地域および作型 (図1)

『秋・春播きの露地栽培が最適。また、耐寒性が強く、低温伸張性も良いので冬播きのハウス・トンネル栽培も可能。』

1) 一般地・暖地

最適播種期：

- (露地) 9月下旬～10月下旬
3月上旬～4月上旬
- (ハウス) 11月上旬～12月上旬
1月上旬～3月中旬

2) 北海道、東北、冷涼地

最適播種期：

- (露地) 8月中旬～9月下旬
3月下旬～4月下旬
- (ハウス) 8月下旬～11月上旬
3月上旬～4月中旬

4 栽培上の注意点

1) 秋播き栽培

栽植密度は条間15～20cm、株間3～5cmを基本とします。極端な厚播きでは徒長や節間伸長しやすくなるので、適正な播種密度になるよう播種機を調整してください。

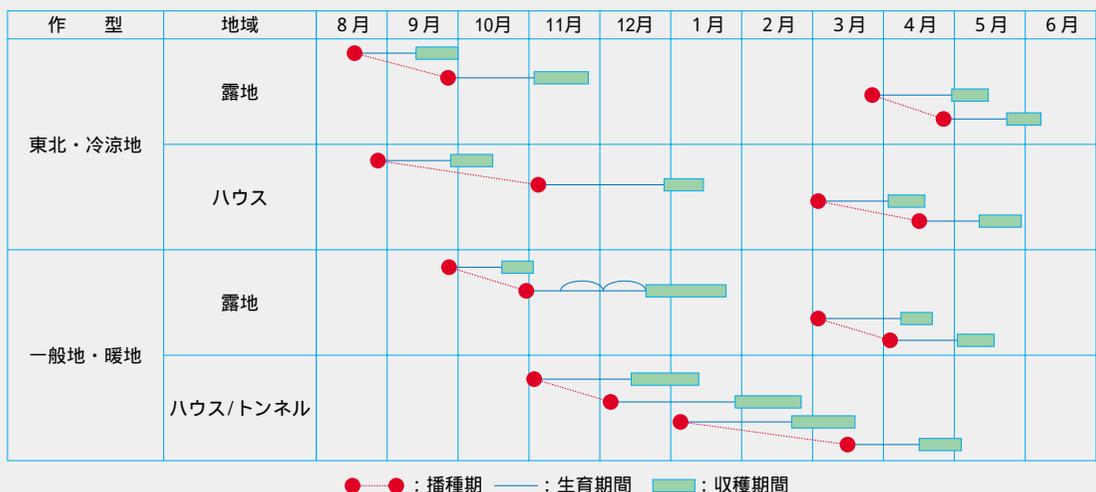


図1 『CM-3』の適応作型

肥料のやりすぎは、葉身と葉柄のバランスをくずすので注意が必要です。露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分で窒素15kg、リン酸15～20kg、カリ15kgが目安ですが、ハウス栽培ではそれぞれを8～10kg程度に減量します。

秋播きの病害として、べと病、白さび病、炭そ病等がありますが、登録のある薬剤は白さび病、炭そ病に対するユーパレン水和剤程度しかなく、土壌消毒や収穫残渣の圃場外への持ち出しといった予防策が防除の基本となります。また、秋期の栽培では生育期間が30日程度と短く、農薬時期等によっては農薬残留の恐れもあり、農薬の散布には十分注意が必要です。散布にあたっては、低濃度で薬液量を増やし、葉裏まで十分農薬がかかるようにすることが効果的です。

2) 冬播き栽培

低温期の栽培となるため、「ハウス」や「トンネル」栽培を基本とします。

厳寒期（12～2月）播きの作型では、株元がやや太くなるため、栽植密度は条間15～17cm、株間3～4cmとします。やや密植栽培にすることで、株元の張りが抑えられ、バランスの良い株が得られます。

抽苔は比較的遅い方ですが、生育をこじらせると抽苔の危険があるので、必ずハウスやトンネルを利用して生育をスムーズに進めるよう心掛けてください。

抽苔は低温により花芽分化が起こり、その後の高温長日で抽苔が促進されます。

3) 春播き栽培

栽植密度は条間15～20cm、株間3～5cmを基本とします。

温暖な時期になるので、1回の播種量を少なめにし、収穫期を逃さないように注意してください。また、ハウス栽培では生育初期に換気不足で軟弱に育てると、胚軸が少し伸びるので注意が必要です。

温暖になるほどコナガなどの食害が目立ってきます。露地栽培では播種直後から防虫ネット、寒冷紗のべたがけやトンネル被覆を行い、成虫の飛来を防ぎます。防虫ネットは、うね幅より少し大きめに被覆し、葉が内側からネットにさわらないようにすること、収穫4～5日前には葉の着色および株を少し硬化させるため、ネットを取り除くことが良品生産につながります。温暖になり、地温が上昇すると萎黄病が問題になります。「CM-3」は萎黄病には比較的強い方ですが、激発地および気象条件によっては発病が見られるので、圃場選定に留意して下さい。

その他の病害として、白さび病、べと病がみられますが、これらについては殺菌剤散布による予防が大切です。

5 むすび

コマツナは周年出荷されていますが、高温期や低温期など時期によって草姿、収量性が異なるため、有利なコマツナ経営をしていく上で、その時期に適した品種を選択していくことが極めて重要です(図2)。今回、ご紹介した『まっちゃん(CM-3)』は低温期の栽培で能力を発揮する秋冬コマツナです。本種の特性を生かし、また、栽培のポイントを良く理解して頂いて、良品を安定出荷されることを期待しております。



図2 作型別適応品種

播種期：●●(露地)
●●(ハウス)